

I 題材名 ひみつのグアナコ（立体） - 「グアナコ」という言葉から想像したものを、粘土で工夫して表す -

II 指導構想

1 指導目標及び内容

指導要領（第1学年及び第2学年）より、本題材設置にかかわる事項を以下のように記した。

(1) 指導目標	① 進んで表したり見たりする態度を育てるために、つくりだす喜びを味わうようにする。 ② 造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。 ③ 身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じとるようにする。
(2) 指導事項	<u>A表現</u> (2) 感じたことや想像したことを絵や立体に表す活動を通して次の事項を指導する。 ア 感じたことや想像したことから、表したいことをみつけて表すこと。 イ 好きな色を選らんがり、いろいろな形をつかって、楽しんだりしながら表すこと。 ウ 身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。
	<u>B鑑賞</u> (1) 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。 ア 自分たちの作品や身近な材料を楽しくみること。 イ 感じたことを話したり、友人の話の聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。
(3) 共通事項	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。 ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。 イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

題材化

2 題材について

指導目標を及び内容を受けて、以下のように題材を設定した。

<p>本題材の特質</p> <p>★ <u>想像する楽しさ</u></p> <p>「こんな動物が本当にあったら楽しいな」と、自分だけの世界の動物を想像する楽しさがある。その動物の名前、性格、好みなどもさらに想像を膨らませると、なお楽しい。</p> <p>★ <u>テラコッタ粘土の可塑性の楽しさ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 五感を働かせてつくりだす心地よさ ・ いろいろ変形できる面白さ ・ 心地よい手触り ・ 水加減によって、調整ができる。 ・ 粘土と粘土がよくくっつく。 ・ 何度でもやり直すことができる。 ・ 焼成するといつまでもとっておくことができる。 <p>立体指導の留意点</p> <p>子どもは、立体感（量感・塊・重さ・面・構造・芯など）を感じ、どのような形にするかを考え表し方を工夫することになる。しかし、これは、作品を分析的にみる要素であり、それを教えるのではない。これらに「子どもが気付く」「思いがそのような要素で現れる」という視点をもって指導にあたるようにする。</p>	<p>2年 1学期</p> <p>【題材名】</p> <p>ひみつの グアナコ（立体・2H）</p> <p>- 「グアナコ」という言葉から想像したものを、粘土で工夫して表す -</p> <p>【本題材における指導目標及び評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ テラコッタ粘土にかかわりながら、想像した動物を表すことを楽しむ。《意欲・関心・態度》 ◎ 粘土のかたまりとかかわりながら、つりたい動物の形や特徴などについて思いつく。《発想や構想の能力》 ◎ 手の感覚を十分に働かせながら、粘土を形づくるとともに、表したいことを思いのままに表す。《創造的な技能》 ◎ 自分や友達の発想のおもしろさに共感しながらよさを味わう。《鑑賞の能力》 <p>【共通事項】</p> <p>好きなものの形を表しながら、自分のイメージをもつ。</p> <p>【扱う主な材料・用具】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ テラコッタ粘土（一人1.5kg） □ 粘土版 □ 粘土ペラ □ タオル □ ブルーシート □ バケツ □ ビニル袋 <p>【本題材で扱う資質や能力】</p> <p>☆ <u>粘土操作</u> ☆ <u>造形感覚</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 穴をあける ・ 量感 ・ 塊 ・ 質感 ・ 塊から、しぼり出す ・ 特徴 ・ 面白さ、楽しさ ・ 指でしっかりとつける <p>☆ 「粘土操作」「造形感覚」を意識した言語活動</p>	<p>子どもの実態</p> <p>◆ <u>関心・意欲・態度の面から</u></p> <p>どの子どもも、「つくりたい」、「描きたい」という造形的な意欲が高い。</p> <p>◆ <u>発想・構想の面から</u></p> <p>「何をつくったらよいか」「何を描いたらよいか」思い浮かばず、活動が停滞しがちな子どもがいる。また、全体的に様々に空想する、想像するという面では、やや弱さを感じる。</p> <p>◆ <u>創造的な技能面から</u></p> <p>粘土遊びの経験は多くない。紙粘土を扱う題材では、形に表す、色を混ぜるなどで難しい子どもがおり、具体的に補助を行う場面があった。</p> <p>◆ <u>鑑賞の面から</u></p> <p>友だちの作品をみて「すごい」「きれい」と素朴な感想を述べることができる。「〇〇が△△だから」と深く見る視点や、思いを語るための、図工特有の言語を増やすことが課題である。</p> <p>◆ <u>他教科等の関連から</u></p> <p>生活科では、草花の特徴に目を向け、「かわいい」「形がおもしろい」などの感想や思い、気付きで、友だちと互いにかかわる姿がみられる。</p>
--	---	--

1年 2学期
みてみて、いっぱいつくったよ（立）
— すきなものをいろいろおもいついてつくり方を工夫する —

【主な扱う材料、主な操作】
土粘土、のばす、ゆびでつけるなど

【他学年題材との関連】

2年 1学期
ひみつのグアナコ（立）

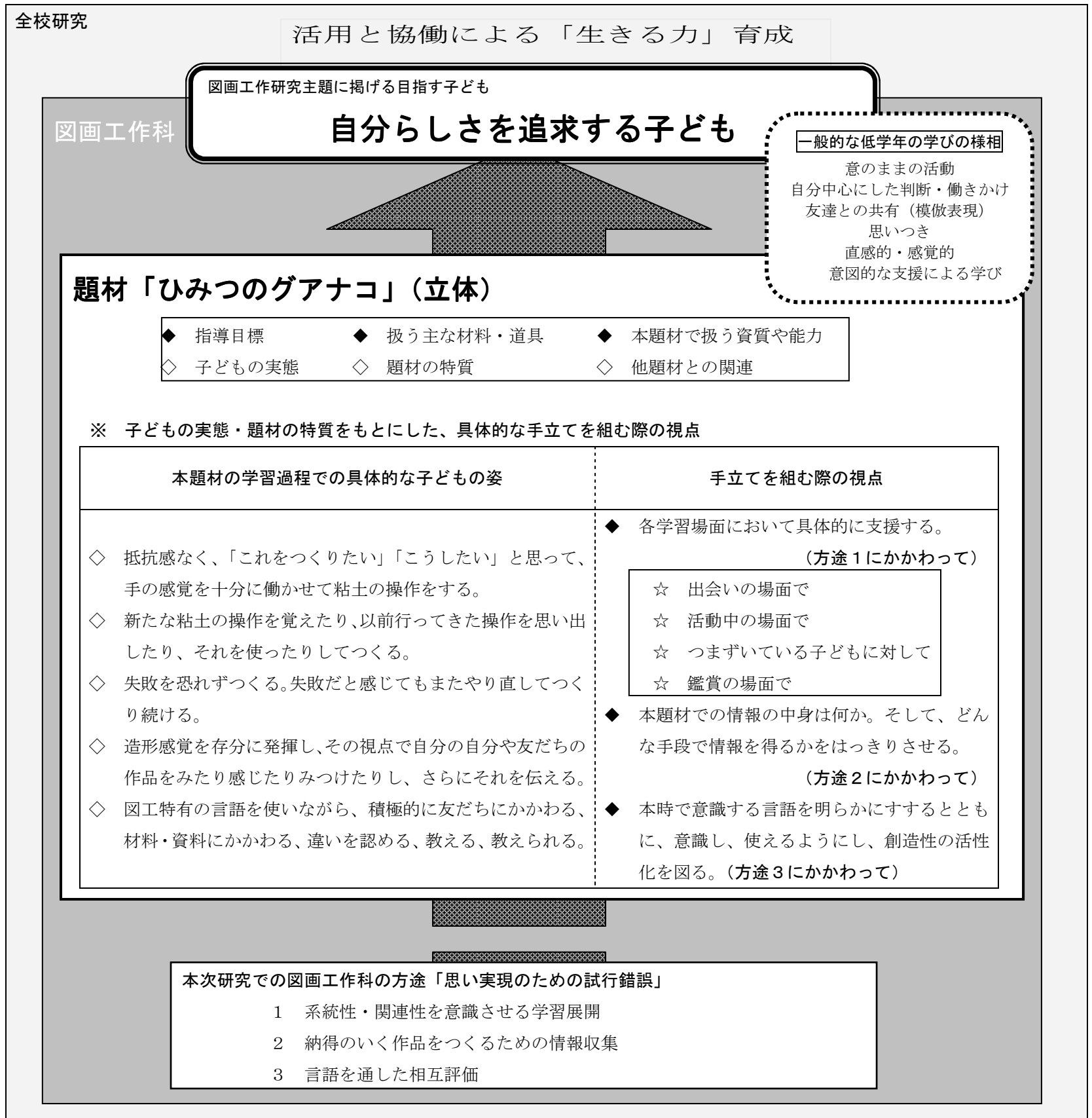
3年 2学期
ひみつの粘土王国（立）
— 粘土を掘ったり、削ったりしながら、思いついたものを工夫してつくる —

【主な扱う材料、主な操作】
土粘土、掘る、削るなど

3 指導計画

(1) 本次研究とのかかわりから

以下のような視点で本題材の指導を計画する。



(2) 具体的な指導

① 具体の評価規準

時間	評価規準・評価方法			
	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1・2	テラコッタ粘土に穴を開けたり、塊からしぼりだしたりして、粘土の操作を楽しんでいる。 (観察・対話)	粘土を操作したり、「グアナコ」の言葉から想を広げたりして、つくりたい動物の形や特徴を思いついている。 (観察・対話)	手の感覚を働かせながら、粘土に穴を開けたり、塊からしぼりだしたりしながら、つくりたい動物を思いのままに表している。 (観察・対話・作品)	活動したことについて工夫を話したり、友だちと話したりしながら、形や特徴の面白さをとらえている。 (観察・対話・振り返り)

② 展開 (太枠は本時)

時間	段階 (分)	学習活動	研究の視点をもとにした指導上の留意点 (口枠は特に方途1・2、※は特に方途3にかかわって)	準備・資料など	評価規準 (重点) 評価方法
1	着想 発想 構想 (20分)	(1) テラコッタ粘土と出会い、その感触を味わう。	出会いの工夫 ① テラコッタ粘土と出会う。(材料からの発想) ・ 活動場所の中心に、予めブルーシートの中に粘土の塊を準備しておき、期待感をもち、意欲を喚起する。 ※ 「触った感じ」を通して発せられた子ども声を、全体に広める。	<ul style="list-style-type: none"> ● ブルーシート ● テラコッタ粘土 ● ぞうきん ● 粘土板 	【関】 テラコッタ粘土に穴を開けたり、塊からしぼりだしたりして、粘土の操作を楽しんでいる。 (観察・対話)
		(2) 粘土体操をしながら、「穴をあける」「塊をのばす」「しっかりと指でつける」という感覚をつかむ。 (3) ひみつの動物「グアナコ」を思い浮かべ、活動の方向性を示す。	② 粘土体操をさせる。(体全体を使って造形感覚を耕すとともに、操作に慣れる) ◆ 指で穴を開ける ◆ 塊をのばす ◆ しっかりと指でつける ・ 本時で大切にしたい操作を中心に行う。 ・ 音楽を流してダイナミックに行わせる。 【1年生】◆ つまむ ◆ しっかりと指でつける 【3年生】◆ 掘る ◆ 削る ※ 前後の学年で扱いたい操作を子どもも教師も意識できるように語りかけながら行う。		
		(4) 手の感覚を十分に働かせながら、いろいろな形に変身させて、思い浮かべたものをつくる。	③ 「グアナコ」という言葉と出会う。(言葉からの想像) ※ 想像するための視点を黒板等に整理するとともに、想像が膨らむように子どもの発言をつなぐ。 ◆ どんな姿か ◆ どうなうち住んでいるか ◆ どうなおかしが好きか ◆ どんな名前か	<ul style="list-style-type: none"> ● 「グアナコ」と書いたカード ● 想像した事柄の掲示 ● 題材名 ● 課題 	【創】 手の感覚を働かせながら、粘土に穴を開けたり、塊からしぼりだしたりしながら、形づくっている。 (観察・対話・作品)
		(4) 手の感覚を十分に働かせながら、いろいろな形に変身させて、思い浮かべたものをつくる。	④ 必要に応じて、形になるまでの手順を示す。(つくる過程の違いの気づき) ◆ 具体的に想像した動物を形にして (はっきりとしたイメージ) ◆ 粘土を操作しながら、イメージがみえてきた ◆ 粘土の操作でみつけた、面白い形の発見から、〇〇にみえるというように、意味を後につけて ・ あくまでも指導者が子どもを支援する際に、とらえておきたい視点であるが、必要に応じて、「〇〇してもいいよ。」と声をかけていく。	<ul style="list-style-type: none"> ● 粘土ペラ 	
		(4) 手の感覚を十分に働かせながら、いろいろな形に変身させて、思い浮かべたものをつくる。	⑤ かかわりを促す。(表現の違いのよさの気づき、認め合い、自分の表現の向上) ◆ 教師がつなぐ ◆ 子ども同士の自然なかかわりから ※ 掲示している言葉や操作の視点などを手がかりにして。 ※ 教師が言葉を補充したり、つないだりして。	T: 〇〇さん何をしていますか。となりの△△さん、みて感じた感想を伝えてくださいね。 T: 〇〇さんはどこで悩んでいるのですか? △△さんが、同じように悩んでいましたが、解決したみたいですよ。△△さんから、ヒントをもらってははどうでしょう。	【創】 いろいろな粘土操作をし、つくりたい動物を思いのままに表している。 (観察・対話・作品)
2	構想 表現 (25分)	(4) 手の感覚を十分に働かせながら、いろいろな形に変身させて、思い浮かべたものをつくる。	支援の工夫 ⑥ 子どものつまずきに対して具体的な支援をする (例)		
		(5) 友だちと作品を見せ合って、頑張りや工夫を話し合い、互いのよさに気付く。	具体的な操作ができずに、活動が停滞している。 → 粘土を「伸ばす」「穴をあける」を中心に補助し、そのあとできた形を「何かに見えないか」など具体的にイメージさせていく。また、「足からつくる」「次は手」など直接補助をする。さらに、こわれやすくて活動が停滞している時は、割り箸など、芯を入れてあげる。		【鑑】 友だちと話したりしながら、形や特徴の面白さをとらえている。 (対話・カード)
		(5) 友だちと作品を見せ合って、頑張りや工夫を話し合い、互いのよさに気付く。	具体的な操作はしているが、何を表したらよいか迷っている。 → 無理にみ立てる必要もない。形の面白さ、美しさがあるはずである。友だちとの対話で、題名をつけてもらうなどする。さらに、やはり可塑性を生かして、何度でも試させる。		
		(5) 友だちと作品を見せ合って、頑張りや工夫を話し合い、互いのよさに気付く。	小さい作品になってしまっていて、十分な活動ができない。 → 粘土の量が多いことが考えられる。そのため、粘土の量を減らしてあげる、「一つつくったグアナコの兄弟」などのように、発想の転換をし、具体的に助言する。		【鑑】 友だちと話したりしながら、形や特徴の面白さをとらえている。 (対話・カード)
		(5) 友だちと作品を見せ合って、頑張りや工夫を話し合い、互いのよさに気付く。	鑑賞の工夫 ⑦ 作品をひとつにまとめて、ダイナミックに鑑賞させる。(新たな仲間の発見) ※ 自分が想像したグアナコを紹介し合って鑑賞する。 ◆ 最後の作品のできばえだけでなく、始めと終わりの作品の違い、つくっているときの様子なども、教師が言語を補充したり、つないだりして、伝えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 鑑賞カード 	

(課題) ねんどをいろいろな形にへんしんさせて、自分の「グアナコ」をつくろう。